

【我々のために立てている神の計画】

今日の聖書本文:エレミヤ29章10-13節/ 今週の暗唱聖句:エレミヤ29章11節
 “わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。
 —主の御告げ。—それはわざわざではなくて、
 平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。” 説教者: 鄭南哲牧師



今日我々を招いてくださる神様の御言葉はエレミヤ書です。聖書の章で言うとイザヤ書が66章で、52章になっているエレミヤ書よりは長いですが、分量で言うとエレミヤ書が預言書の中で一番長いです。エレミヤ書は聖書全体の5%を占めます。エレミヤは1章1節によると、祭司ヒルキヤの子として、BC626年頃、約20才の若い時(エレミヤ1:6,25:1)預言者として召しを受け、エルサレムの陥落(586BC)まで約40年間活動しました。彼が働いていた時代はイザヤより後の激動の南ユダの滅亡の前後でした。つまり、ヨシヤ王(31年間)、エホアハズ(3ヶ月)、エホヤキム(11年)、エホヤキン(3ヶ月)、そして最後の王であったゼデキヤ王11年、つまり、ユダがバビロンのネブカデネザルに敗北される時まで活動しました。

<当時、時代的、政治的状況>

エレミヤが活動を始めた頃はヨシヤ王が王になってから13年になる年でしたが、ヨシヤ王は宗教改革を断行(だんこう)した王でしたが、戦死し、その子であるエホアハズが王になりますが、当時強力な帝国だったエジプトの攻撃を受け、引き連れられて死亡しました。その後エホヤキムが王になりますが、彼もバビロンに包囲されたまま死にました。その後その息子が王になりますが、彼がエホヤキンです。しかし、彼もバビロンに引いて行かれ死にます(第二列王24:6-16,36:8-10)。

その次の王がユダ王国の最後の王であるゼデキヤですが、彼は21才に王になります。しかし、残念ながら、彼も前の王のように偶像を崇拜し、悪を行います。そういうわけで聖書の彼への判定は“主の目の前で悪を行った”でした(エレミヤ52:2)。ゼデキヤが王になって9年の10月11日、新しい強大国として現われたバビロンのネブカデネザル王が軍隊を連れて来てエルサレムを包囲しました。差し迫ってきたゼデキヤ王はエレミヤに使者を送ってお願いします。“お願いします。我々が滅ぼされないように祈ってください。主が以前たくさんの奇跡を起こしてくださったように我々にも奇跡を施してください。祈ってください。”これが21章の内容です。

するとエレミヤは神の救いは訪れないと言い、生きようとするなら降参しなさいと言いました。もはや神の哀れみの時は過ぎてしまったのです。バビロン軍がエルサレムを包囲しているので城の中には食べ物もありませんでした。ひどい飢饉に苦しんだすえ、ゼデキヤ王は脱出を企(くわだ)てます。しかし、すぐさま逮捕され、自分の目の前で息子が殺害され、彼はバビロンの捕虜として引いていきました。その時、ゼデキヤ王は32才で、紀元前586年エルサレムは結局敗亡してしまいます。

このような政治的激動期(げきどうき)に預言していた人がエレミヤでした。エレミヤ書はたしかに長いですが、彼の預言の重要な内容は審判と回復です。偶像崇拜と背教に対する忠告を無視して、悪を行ったユダに対する審判とエルサレムの滅亡と聖殿の破壊を預言し、バビロンに捕虜として連れられていく事を預言しました。しかし、70年が過ぎたら、ふたたび本土に戻るといふ捕虜からの帰還、つまり回復がエレミヤを通した神様からの預言の核心でした。

<神の御心を真実に伝えた涙の預言者エレミヤ>

実は当時神の預言者エレミヤは正直な預言をしたことによって嫌われました。エレミヤは神様の審判を宣言しました。バビロンに捕虜として連れられていく事を預言したわけです。彼の預言の通り、バビロンがエルサレムを攻撃し始めました。この時、エレミヤは彼らに抵抗しないで、降伏するようにと言いました。エルサレムが敗亡される10年前、エレミヤは部族と(エレミヤ27:1-11)ゼデキヤ王(エレミヤ27:12-15)と、その民に(エレミヤ27:16-22)バビロンに仕えるようにと進めました。バビロンに対抗するならばバビロンによって滅ぼされるが、降伏すれば滅亡だけはそのがれると言ったのです。(エレミヤ27:1-8)これによってエレミヤは同じ民族のユダ民族にひどく非難されました。敗北主義者という非難も受けました。もしくはバビロンと内通(ないつう)した者だと非難と誤解をされました。それにしてもエレミヤはユダ民族が最後まで悔い改めず、神に戻らなかった結果、バビロンの捕虜になることを知っていたので、彼らともめあうことすら意味がないこともすでに知っていました。

エレミヤと同時代に預言していた預言者の中で、ウリヤという人がいました。彼もエレミヤと同じようにバビロンに仕えなさいと預言したら、これによって彼に対する逮捕令がくだって、逃亡者になり、結局、捕まえられてきて処刑されました。(エレミヤ26:20-23)同じくエレミヤも危険にさらされていました。しかし、シャファンの子アヒカムがエレミヤをかばい、守ってくれたので、エレミヤは死からのがれる事が出来ました。(エレミヤ26:24)

神の預言者エレミヤは人々が良からうがいやがろうが、神様の仰せられたとおりに預言しました。時にはいましめ、時には神の裁きを預言し、時には涙で切に進めるときもありました。それで、よくエレミヤを‘涙の預言者’とも言うのです。来週、我々が聞くメッセージはエレミヤ哀歌ですが、つまり“悲しみの歌”を記録しただけではなく、祖国の偶像崇拜と滅亡を

みながら民が罪から立ち返るようにとたえず泣きながら訴えていた神の預言者だったからです。

<ニセ預言者たちに対する警告>

エレミヤ書の本文になる29章の8節と9節によると偽りの預言者たちと占い師たちにごまかされないようにとされました。エレミヤ預言者がこのように神の裁きを述べている間、当時偽りの預言者たちは偽りの平安を伝えながら、まるですぐに本土に戻られるかのように言っていたのです。その偽りの預言者たちに対する記録が23章9節以下に記録されています。

ちなみに、23章11節をみると、“預言者も祭司も汚れている。わたしの家の中にも、わたしは彼らの悪を見いだした。”14節には彼らが姦通し、うそをついて歩き、悪を行い、16節にはむなしいことを教え、自分の心の幻を語っているだけだと警告します。たとえば、28章1節以下では当時偽りの預言者の一人だったハナヌヤの場合を具体的に紹介しています。

彼は“万軍の主イスラエルの神”の名前を借りて、神様が捕虜として連れて行かれた者たちをすぐに取り戻して下さるかのよう言いながらあなたがたは平安だ平安だというニセ預言をしたのです。

ですから、愛する信仰の家族のみなさん!

我々はニセ預言者たちの三つの特徴を覚えなければなりません。一つ目は、神から召しを受けなかったことです。彼らはエレミヤのように召しを受けませんでした。ですから、神のことばを言っているように見えますが、実は自分の思いを語ります。(エレミヤ23:16-24)。

二つ目、人が聞きたがる言葉だけを語ります。すぐに聞くには良いかも知れませんが、神の御心を伝えることではありません。(エレミヤ23:25-32)三つ目は金や財産をほしがります。もしくは代価を要求します。神を愛するようには見えますが、実際には金を愛する者です。しかし、ニセ預言者はすぐには区別されません。時間が経てば、神様が自然に明かして下さるでしょう。いまの時代も偽りの教えと、偽りの預言者たちがどれだけ多いか分かりません。どうすれば、これをちゃんと見分ける事ができるでしょうか？それは神様の御言葉をよく聞き、いつも聖書を基準に、聖書を近くにおいて聞くほか道はありません。

<神の民に対する神様の計画:災いではなく平安を>

今日の本文であるエレミヤ29章10節から14節までは神の裁きの中においても神様からの回復と平安をくださる御言葉が記録されています。“主であるわたしはこう仰せられる。バビロンから70年が過ぎたら、あなたがたを顧み、わたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの地に帰らせる。”とエレミヤははっきりと言います。バビロン捕虜からすぐに戻れないで、70年が過ぎてからようやくエルサレムの本土に帰ると言いました。

これが神様が定められた時と期間でした。我々は時々すぐ焦ってしまいます。なぜ、神様はこんなに長く時間をのばしているのか？もしくはなぜ神様はこんなに早いのか？しかし、それは我々の思いと基準です。神様の基準と時があります。すべてのことが自分たちの計画通りになるのだと勘違いしますが、実際には神様の計画と御心のままなされているのです。神様は我々のスケジュールに合わせてくれようとしません。むしろ、我々が神様のスケジュールに従ってついて来てほしがっています。なぜでしょうか？神様の計画と定めた時こそが我々には一番正確で、必要で、我々のための時間になるからです。アメリカのことわざでこのようは表現があります。‘**神の時は早すぎも、遅すぎもありません。(God’s time is not too early, not too late)**’

みなさん!同意しますか？これを信じて、認めますか？アーメン!

29章4節の始めに、エレミヤは自分の言葉ではなく、“万軍の主、イスラエルの神がこう仰せられる”と言っています。イスラエルの民は罪を犯したゆえに他国に連れられていきますが、それにしても神様はその約束を忘れないこと、そして神様はいまもイスラエルの神であり、彼らを覚え、彼らを見捨てもしないで、導き、守ってくださる事を言いました。そうしながら、彼らが捕まえられていったのは政治的に、軍事的に力がないからではなく、偶然ではない事を強調しています。

“わたしが引いて行かせた”という表現が29章に2回も繰り返されています。

4節をみてください“イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「エルサレムからバビロンへわたしが引いて行かせたすべての捕囚の民に」そして7節にも“わたしがあなたがたを引いて行ったその町の”と書かれています。つまり、ユダ民族の捕虜は偶然ではなく神様の主権の元で許されたことだったのです。

しかし、今日の本文のとっても大切な箇所がありますが、11節をみてください。“わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。一主の御告げ—それはわざわい(harm)ではなくて、平安(prosper)を与える計画であり、あなたがたに将来と希望(hope)を与えるためのものだ。”ここで“わたしは知っている”という御言葉は人々はあまり分からないと言う意味です。我々に対する神様の確実な計画があるはずなのに、我々人間は計り知れません。そういうわけで、つぶやき、神をうらみみますが、神様は確実な計画があります。その計画は約束の民に有益なことです。結局イスラエルの民が70年間バビロンに捕虜として連れて行かれたのは、すぐにはわざわいのように見えたかもしれませんが、神様の究極的計画は彼らにまことの平安と繁栄をもたらすためだったのです。

<エレミヤ書の我々に対する教訓>

今日の本文をとおして我々に与えられる教訓及び真理を四つにまとめることができます。

一つは、神様は最後まで悔い改めない者にその行いに応じて裁かれると言うことです。ユダ民族のバビロン捕虜は彼らの

不従順に対する裁きでした。神様は勧め、警告し、預言者たちをたえず送って訓戒しますが、それにしても聞かなかった時、神様はかならずその罪に対して裁かれます。神様の審判は正しく、正確です。そういうわけで、我々はいつも生きておられる神様を恐れおののいて仕えなければなりません。そして、今日聖餐式の前にもう一度いつも自分の隠れた罪はないのか正直に、神様の御前で悔い改めつついなければなりません。

二つ目、神様の約束は神の定められた時にかならず成されます。 結局70年間の捕虜の日が過ぎて彼らは本土に戻る事が出来ました。神様は我々との約束をかならず守り、成し遂げていかれる方であることがわかります。

三つ目、私たちの周りにもいつも平安だ、平安だと言いながら耳だけを喜ばせる偽りの預言者がいることです。偽りの教師と偽りの教え、つまり異端を警戒しなければなりません。偽りの預言者たち、金をほしがる者たちを気をつけましょう。

四つ目、我々に対する神様の御心はわざわざではなく、平安であり、希望である事を疑わないで最後まで信じなければなりません。 罪とは妥協がない正義の神様であると同時に我々が信じている神様は神様を信じて仕えているご自分の民をあわれみ愛してくださる方です。我々人間の視野と思いで若干苦しいことにあうとそれを苦しみだと試練だと思いますが、神様は究極的にご自分の民に将来を希望を与える方です。我々が時にはこれが一番大切なんだと言い張りますが、神様は‘あれ’がもっと大切だと言われる時があります。

問題は神様がなにをもっと大切に見ておられるのかを我々が正しく見分ける事が出来ないことです。何かを失うと大いに心配し、悩みますが、神様はそれよりさらに大切なことを備えておられるのです。ですから、いまおかれている大変なことによって絶望しないで下さい。すべてが自分の思うとおりになって行くならもっと神様の御前でへりくだって、気をつけてください。我々に対する神様の計画と神様の御心のみが成されて行くと信じます。

大変な境遇(きょうぐう)にあっているなら、この御言葉を思い出してください。

“わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。”

12 あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。

13 もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。

これが神様を信じている民たちへの神様の計画です。この事実を信じるなら、もう一度主をたずね、主を迎え入れ、心から主に委ね、従いつつ、主とともに歩むことにより神様から与えられる平安と希望の道を歩むクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!